

淡路市中間支援ネットワークの事務局機能 構築事業

事業が目指すところ

淡路市では人口減少や担い手不足が進む中、移住者の増加を活かし、地域とつながる仕組みが求められている。島くらし淡路は「まぜる・まざる活動」を通じて移住者と地域の協働を促進し、地域愛着を深めることを目指してきた。その中で、中間支援ネットワークの立ち上げに参画し、多様な団体と連携した相談業務を開始。単独では解決困難な地域課題に対し、ネットワークを活用した支援を推進している。今年度、相談窓口「ふらっと」を設置し、リアルな相談対応と交流の場を提供して行くこととし、地域住民や団体の力を引き出し、持続可能な地域づくりを支える中間支援の役割を強化していく。

活動内容

・相談受付「ふらっと」を、気軽に立ち寄れる場所として「HATCH」と協力し窓口を開設。定期的な無料相談会の実施（偶数月に1回・全6回開催予定）

相談件数（18件）

・9月6日（土）「淡路市中間支援ネットワーク はじまりの会」（参加者：8名）

連携団体、行政、社会福祉協議会、市民の方々が参加し、それぞれの活動や課題について意見交換を行いました。ネットワーク同士の交流の場となるとともに、新たな窓口の名称「ふらっと」を披露した。

・11月30日（土）「#手帳会議」（参加者：5名）：出版社にお勤めで、日頃から手帳に携わっている治下氏を講師に迎え、手帳の多様な使い方についてレクチャーを受けまた、書くことを通じて思考を整理し、やりたいことを言語化する交流会を開催。

・地域活動のサポート：公民館事業やまちづくり協議会の運営を支援し、企画運営のサポート、運営効率化、広報支援などを行った。



成果と課題

この1年間を通じて、気軽に相談できる場を開設したものの、相談を目的とした来訪者は少なく、雑談の中から相談が始まることが多い状況だった。そのため、多世代や移住者と地域がまざる「場」を活用しながら周知を進めていく。また、ネットワーク同士の交流を通じて、互いの課題や、どのような団体や人と連携し、ネットワークを強化していくかを検討・共有する機会を持つことができた。さらに、地域に関わることで、窓口の存在を知ってもらうきっかけにもなった。一方で、中間支援ネットワークの窓口としての役割を模索する1年でもあり、今後はその機能をより明確にし、次のステップへとつなげていくことが求められる。